



城北小だより

7月号

さいたま市立城北小学校 令和4年6月30日

児童数 712名

048-757-5391 発行者 中村 篤

「忘れたの？ みんな人間 同じだよ」

校長 中村 篤

6月27日に関東甲信地方の梅雨明けの発表があり、平年より22日早く、昨年より19日早い梅雨明けで、統計開始以来最も早い梅雨明けとなりました。正門を入ると、授業で栽培しているアサガオやホウセンカ、ミニトマトが青々としています。子どもたちが毎日一所懸命水やりをしている姿に、思わず笑みがこぼれます。皆様におかれましては、向暑の折から、くれぐれもお身体ご自愛ください。



さて、この時期は、児童生徒が内面にストレスを抱え込みやすく、理由もなく不安になったり落ち込んだりし、衝動的な行動が増える傾向が見られます。また、いじめの認知件数が増加してくる時期でもあります。そこで、すべての市立学校において、いじめを許さない学校づくりを目指した教育活動を推進するために、6月を「いじめ撲滅強化月間」と位置付けています。本校でも、様々な取組を実施しました。

過日の校長講話では、いじめの具体的な例を挙げ、「ふざけているつもりでも、相手が『嫌だ』『つらい』『やめてほしい』と感じていたら、それは『いじめ』であること」、「いじめは卑怯で許されないこと、いじめている人はすぐにやめること」、「いじめられている人はまわりに助けを求めてほしいこと」、「いじめを見ている人は、『いじめはだめだ』と言える勇氣を持ってほしいこと」などについて話をしました。また、「いじめ撲滅」啓発ポスターを活用し、各学級で児童自ら話し合い、いじめ撲滅に向けた学級スローガンを決定しました。そしてハートフル集会では各学級がスローガンを発表し、いじめを許さない姿勢を表明しました。城北小学校のスローガンとしては、表題の「忘れたの？ みんな人間 同じだよ ~いじめのない未来をつくらう~」に決まりました。

脳科学者の中野信子氏は、大人でも子どもでも、集団では例外なく「いじめ」が起こり、ヒトは「いじめ」をやめられないと言っています。いじめには様々な要因がありますが、いじめはだめだという理性のブレーキを上回るほど、攻撃すると快感を感じるように脳がプログラムされており、誰かをいじめると脳内で「快楽物質」と呼ばれるドーパミンが分泌されて快感を感じるのだそうです。特に子どもたちの脳は未発達のため、いじめの対象者を容赦なく攻撃してしまうのだそうです。

しかし、たとえそうであっても、いじめは許されるものではありません。いじめを防止するためには、「いじめは絶対に許さない」という姿勢を訴え続けること、心の教育を充実させ理性のブレーキを強くすることが重要であると考えます。6月の取組に引き続き、心と生活のアンケートや人間関係プログラムの実施、道徳教育の充実等、いじめ撲滅に向けて学校全体で取り組んでまいります。ご家庭でも、ぜひお子様といじめについて話し合ってみてください。また、お子様を温かく見守っていただき、もし何かご心配なことがありましたら、遠慮なく学校にご相談ください。学校と家庭が連携し、いじめのない、笑顔あふれる城北小学校をつくりたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。